

登山計画書とは

どうしたら自分たちの登りたい山へ登れるかを具体的に検討し表したもので、リスクを回避して安全に登山を楽しみ、万が一の場合に備えるためのもの。

登山における計画書の占める割合

計画書作成	50～60%（この段階で登山の正否は80%決定するといわれている）
実際の登山	30～40%
報告書作成と反省	5～10%（これができて登山ははじめて完了・一番難しい仕事）

自分にあった計画、無理のない計画を

計画をたてるということは低い山、高い山、日帰り、長期の山であろうと必ず必要です。

計画の良い悪いがてきめんその山行に現れるものです。予想されるあらゆる要素を考えてたてた計画は、山行の安全性をより高いものにし、ずさんな計画は最後には遭難さえ引き起こしかねないものです。良い登山は良い計画によるということです。

登山とは家を出たときから家に帰るまでといわれているが、それよりももう一段前にさかのぼり、その山の計画をたてるときからその山行が始まっている。また山へ行こうと考えたときから山行の第一歩が踏み出されています。また最後に報告書（記録）を作成してはじめて登山は終わりになります。

山では自分自身で試み、時には失敗し、反省して得た経験とそれにもとづく知識しか役に立たない。自分の成長のためにも報告書をだそう。どんなに知られた山でも自分の体験は他の人の体験では無いのです。

私たちが山やコースを選ぶ場合、欲張った計画、自分の力量以上のものを選ぶことががちです。相手の山も登山者を選ぶ権利をもっており、時には冷酷な選び方をしてきます。少しでも計画に甘いところがあればその隙間をつかれます。

計画をたてるために考えられるすべての要素、自分の経験と体力と技術、日数と費用、用具、パーティの構成などを基盤にし、目的とする山（ルート）と山行の季節を考えて計画をたてる。同時に遭難対策も考えておく。またミーティングを行いパーティ全員のものにしておく。

2008,05,20 神津